



図書館サポーターズだより

明日に吹く風



春の暖かい日差しが感じられる季節になってきましたね。図書館で一息つきつつ、新しい本との出会いを探してみませんか？ 今月も、図書館サポーターズおススメの本を紹介します。

～図書館サポーター推薦図書～

『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』

ブレイディ みかこ 著 (376.3 || B71)



この本のタイトルを初めて見た時、何かは分からないがとても心に響くものがあり、本の内容も知らずに手に取り、どうしてもタイトルの意味を知りたくなりました。内容は、自身の息子や息子の友人たちの中学生生活の最初の1年半の出来事を著者目線からまとめた日記のようなものでした。英国での生活の様子や、ハーフゆえの子どもの悩み、学校の階級格差など当たり前だけれども、日本だけでなく海外にも同じようなことはあるのだと考えさせられました。差別、いじめ、多様性、国、政治など、色々大変なことはあるけれど、時に笑い悩みながらも強くすくすくと育っていく子どもたちはこれからの未来をどのように照らしてくれるのだろうか、と考えさせられる一冊です。 (A・M)

『やはり、ブラックなんでしょうか？ 先生の仕事を100選びました。』

村山 茂 著

(374.35 || Mu62)



みなさんは、「先生の仕事」と聞いてどのようなものを思い浮かべますか？ 授業の準備、学校行事の準備、運営、学級経営など私たちが想像つくものから、市内のパトロールや遠足等の下見など私たちが知らない仕事までたくさんあります。この本にはそんな先生の仕事が100個も集まっています。今の世の中、「教師不足」と言われていますが、先生の仕事はとてもやりがいがあり、「教師」という仕事に満足している先生は8割もいます。確かに、大変なこともたくさんありますが、そんな考えを変えてくれるほど充実した1冊となっています。教師になりたい方、迷っている方、必読です！！もちろん、教育現場に興味がない方もぜひ読んで、この機会にどんな仕事があるのか知ってみませんか？ (M・H)

『無印良品の文房具。』

(589.73 || Mu22)



“無印良品好き”さん、“文房具好き”

さん、大集合です。あまり興味が無いなあ…と思っているあなた、無印良品の沼、文房具の沼へようこそ！

この本の主役は、無印良品の「文房具」。他のメーカーにはない素材へのこだわりや独自のアイデア、デザインの特徴などを、写真やイラストも掲載しながら、商品の一つひとつ紹介しているため、楽しく読むことができます。また、進化を続ける無印良品の文房具の魅力にも迫っています。無印良品の歴史も知ることができて、今まで何気なく使用していた文房具が、より愛おしく感じるようになる1冊です。この本を読み終えた頃には、無印良品に行きたくなくなっていること間違いなしです。ぜひ、手に取って読んでみてください！ (A・T)

